



校長室だより

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和5年3月8日
第43号

進んですると気持ちいい 朝のあいさつボランティア

春が確実に近付いています。心も体も前向きに、活動的になる気がします。児童会（計画委員会）の発案で毎週続いている「あいさつボランティア」も晴れた朝は特に参加者が多くなります。校門周辺には元気で明るい「おはようございます」の聲が飛び交っています。少し遅れて登校してきても「まだ間に合いますか？」と急いで合流する子もいます。どの子の顔も生き生きと楽しそうです。「ボランティア」は元々「自ら志願する」の意味とのこと。まさに、自分から進んで行動すると楽しく気持ちいいということ、子供たちの姿から改めて教えられます。



全校で笑顔になれたね！ 荻っ子の力を結集し、「6年生を送る会」大成功！！

去る3日（金）の午後、「6年生を送る会」が行われました。詳しい内容については、すでに学校だより「荻の里」やホームページでお知らせしたとおりです。

★「出来映えよりも過程と学び重視」子供たちの本番までの取組を大切にしました

この「送る会」は児童会主催の集会活動として行われました。「学習発表」の意味合いの強い学校行事とは違い、子供たちの「こんな会をしたい」という思いからスタートし、全校や学級での話し合いを通して子供たちが計画を立て、一人一人が自分の役割や責任を果たそうと取り組みます。そうして自分たちが決めたことに取り組み過程とそこから得る学びを、なにより大切にしたいと考えました。

とはいえ、時間的な余裕はあまりなく、一方で一定の感染対策を講じる必要もありました。様々な条件がある中でもできるだけ子供たちの主体的な活動となるようにと、職員室でも事前の打合せを何度となく行いました。こうして、3学期のはじめから少しずつ、子供と大人の双方から全校での準備を進めてきました。

★出来映えも最高！ 本番は熱気と笑顔で大盛り上がりでした

在校生のリーダーとして会を統括し、全体の進行のほか劇も発表した5年生。クイズとインタビュー、6年生とのゲーム対決等で全校が楽しめるように工夫した2、4年生。飾り付けを担当し、会場の雰囲気華やかに盛り上げた3年生。6年生へのプレゼントを作り、感謝の言葉と共に手渡した1年生。そして、在校生へのお返しのメッセージを劇と器楽演奏で表した6年生。荻っ子の力が結集した本番の会場は熱気と笑顔に包まれ大盛り上がり。あっという間の1時間半でした。（裏面に続く）



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第43号への感想

年 児童名

★保護者の方からの温かいコメントをいただきました

今回、本番の参観は6年生の保護者の方のみとしました。体育館の後方から送る会の様子を観ていただきました。会が終わってから数名の方に感想を伺うと、「子供の成長を感じた」「全校で楽しんでいる様子が素晴らしかった」「感動して涙が出た」「子供たちのチームワークを感じた。特に5年生が素晴らしかった」等々、温かいコメントをいただきました。ありがとうございます。なお、先日文書でお知らせしましたとおり、ロイロノートからの動画配信を10日(金)~12日(日)に行います。子供の肉声は聞き取りにくいかもしれませんが、動きや表情、会場の雰囲気を感じ取っていただければと思います。

★「笑顔いっぱい学びいっぱいの学校」のために、あった方がいいもの

「6年生を送る会」の一連の取組を通して、子供たちは数多くのことを体験できたことでしょう。校長の私にとっても、今回「笑顔いっぱい学びいっぱいの学校づくり」についての気付きがありました。それは「学校は子供にとっても教職員にとっても①『自分で工夫し決めることができる余地』がある方がいい(楽しさがある) ②多様な他者との交流がある方がいい(豊かな体験ができ、心が育つ) ③互いの反応がある方がいい(自己肯定感が高まる)」という単純な3か条ではあるのですが、日頃からぼんやりと考えていたことが確信に変わりました。今後の教育活動の判断基準の一つにできたらと考えています。

シリーズ「教室におじゃまします」 3/3(金)1年生活科の巻

この日は午後の「送る会」に向けて朝のうちに連絡帳を書き終えていた1年生でした。その直後の授業の初めは、広田先生の読み聞かせからスタートしました。休み時間の延長で席を立っている子もいましたが、「100万回生きたねこ」の話が気になって、先生のすぐそばで絵本をのぞき込んでいました。

少し教室が落ち着き生活科の学習に移りました。「ふゆからはるへ」と黒板に書いてから、先生は「この前までは冬だったけど...、春になったらどんなものが変わるかな」と問いかけました。子供たちは次々と思いつくことを発表しました。一人が「花が咲く」「早く花が育つ」と言うと、あとに続いて花の名前をいろいろと発表します。「虫が出てくる」「動物が冬眠から目覚める」といった内容から、「雪がなくなる」「雨が降る」「風が暖くなる」といったもの、「畑を耕す準備をする」「外で遊べる」「服装が変わる」、さらには「顔が変わる」(少し成長する、ということでしょうかね)まで...。しっかり手を挙げて発表し、先生に認めてもらえることが楽しくてたまらない、かわいらしい1年生でした。



おまけの<ひとごと> 現在、3月7日の午後4時、校長室のPCでこのおたよりを作成している机の横の窓からは、3・4年生の男子が10名ほど、グラウンドでサッカーをしている様子が見えます。どの子も一度家に帰ってから学校に集まり直して遊んでいるようです。学校のすぐそばの家の子ばかりではないようですが、一目散に学校に戻ってきたのでしょうか。もちろん、どの子も昼間の体操服のままです。学年が入り交じって夢中でボールを追いかけて、叫び、もつれあって遊んでいるのがほほえましく感じられます。夕方の広場(今回はグラウンド)で思い切り体を動かして遊べる、これも「春になると…」の一つですね。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。